

運用合理化で当局をすどく追及

動労千葉

80.10.20
No. 561

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八〇九・（公衆）品吉（22）七二〇七

動労革マル分子による東京「九月裏切り妥結」をデコとした「千葉への十二月一日強行攻撃」を全力で粉碎せよ。

動労革マル分子と国労日共の反動的野合を足がかりとして、すでに東京三局において乗務員運用合理化の重大攻撃に対し平先協力する形で「九月裏切り妥結」が強行された。そしてそれを唯一のデコに国鉄当局は「政治生命をかけて十一月一日実施する」（反動秋山局長の言辭）なる異常な決意と敵意をむき出しに急ピツチの攻撃を千葉に於て開始した。この様な状況下で、10月17日、14時30分より第一回目の交渉が設定され、動労千葉からは本部執行部・各支部長・関係各支部乗務員分科会長ら21名が出席し、オは回支部代（会）決定にふまえ、断固たる反撃を開始、鋭く当局を追及した。更に徹底的に交渉の場で当局を追いつめると共に全支部での即争体制を万全に構築し、断固として運用合理化を粉碎しなければならぬ。

「乗務員四六名削減」なる「修正提案」をすどく追及！

席上、当局は「去る八月五日に提案した内容について、55.10ダイヤ改における変動、があったので修正提案したい」として、前回提案の45名の減員に更に1名減を加え「合計46名の乗務員削減」を提案してきた。この追加減員1名というのは千葉運転区の予備要員である。

「55.10での決定」の一方的破棄に等しい攻撃

これに対し、われわれは次の各点で鋭く追及し、当局側の見解を求めた。

まずオ一に、運転取場の労働者の労働条件は、ダイヤ改定のその都度における労働者の団体交渉によって決定され、協定・協約として整理されるのを常としてきた。従って「55.10ダイヤ改」においてもわれわれは「次のダイヤ改までの基本的労働条件」を含むものとして集約をはかってきたのである。ところが一月もたない間に、乗務員運用合理化を11月1日強行する」という事は、この集約内容を当局側が一方的に破棄する行為に等しく、「列車ダイヤはそのまま、乗務員運用のみを改定する」というやり方であり全く正当性・整合性のないものである。

しかもオ二に、「55.10での変動」を理由に千葉運転区の減員を1名更に追加提

案してくるなど極めて悪質でパテン的やり方であり、断じて認められない。

「東京九月妥結」を唯一の根拠とする政治的意図むき出しの攻撃をバクロ

オ三に明らかにされた事は、当局がこのような異常な凶暴さをあらわにして「11月千葉も実施」をゴリ押し強制しようとして焦っている背景には「すでに動労東京・国労東京が9月段階で妥結し10月1日より三割五割増の労働強化されたダイヤに乗務させている」↓「だから同じ首都圏国電乗務を担っている千葉もこれに合わせてもらわなくては困る」という理由以外に全くない、テトラメなやり方であることがはっきりと暴露された事である。

「全組紐をあげ徹底的に叩く」と通告

われわれの鋭い追及に全く答えられなくなり、ただ哀願と居直りをくり返すのみ。当局に対し、最後に山口交渉部長が支部代決定の内容にふまえ「11月強行路線は来年三月にそなえた動労千葉破壊攻撃であり、55.10労働確認の一方的破棄と受けとめ、全組紐をあげ徹底的に叩く」ことを通告し、約一時間半のオ一回交渉を終了した。更に体制を固め徹底的に追いつめよう。

速報

昨日(10.19)大成功す。(詳報次号)
更に総力で明日(10.21)本町へ。